

Title	介護現場の再帰的省察支援の実践的方法:生成AIを媒介とした運用構成の提案
Author(s)	三ツ木, 直樹
Citation	
Issue Date	2026-03
Type	Thesis or Dissertation
Text version	ETD
URL	https://hdl.handle.net/10119/20564
Rights	
Description	Supervisor: 西村 拓一, 先端科学技術研究科, 博士

概要

本論文は、高齢者介護の現場で AI を介護職員自身の振り返りを可視化する媒介的手段として配置し、管理者がそれを対話の資源に用いる省察支援の実践的方法を提示するとともに、その運用過程で現場にどのような変化が生じるかを観察するものである。

介護分野における AI 活用は業務効率化や意思決定支援を中心に進められてきたが、組織として共有される目的や方向性が、個人の学習や日常実践とどのように結びつくのかについては十分に検討されてこなかった。本研究はこの点を課題と位置づけ、AI を介した振り返りの可視化と、管理者による対話的な関与の役割に着目し、現場で繰り返し実行可能な運用構成を提示する。

研究対象は高齢者介護施設(デイサービス)であり、介護職員が日常業務後に記述する振り返りを AI が整理・可視化し、管理者がそれを職員との対話の資源に用いる実践環境を構築した。その環境下において、介護職員の行動様式、作業に対する目的の捉え方、ならびにチームワークの変化を、定量的指標と振り返り記述の質的分析を組み合わせて記述した。

運用の結果、研究初期段階では作業内容や出来事の報告が中心であった振り返り記述が、振り返りを継続し管理者との対話を通じて扱われる過程で、行為の目的を含む記述へと推移し、その傾向が日常的に維持されることが確認された。これらの結果は、可視化された振り返りを管理者が組織の目的や方向性と結びつけて扱うことによって、介護職員が自らの行為を組織的文脈の中で捉え直し、行動を調整していく運用が成立しうることを示している。

キーワード： 高齢者介護， 振り返り， 人間中心 AI， 組織学習， 目的の言語化， 知識の可視化